

貴重な文化遺産を 後世に引き継いでいくために

財団法人 日光杉並木保護財団（栃木県）

杉並木保護は
続けることが大切

緑溢れる栃木県日光市の林間に、寛永二年（一六二五年）、徳川家の家臣であった松平正綱、正信親子により、二十数年の歳月をかけて植栽された杉並木。日光街道、例幣使街道、会津西街道からなる全長三七キロメートルに約一万二千五〇〇本が連なり、四〇〇年近くたった今でも息づいています。日本で唯一、国の特別史跡と特別天然記念物の二重指定されている、世界に誇る貴重な緑の文化遺産。

この杉並木が今、危機に直面しています。自然災害による被害のほか、周辺の通過交通量の増加、並木周辺の開発、杉自身の老齢化などの原因により、ここ三五年間で毎年約一〇〇本の杉が枯れ、壮大で素晴らしい杉の景観が近い将来に失われかねない状況になっています。そんな状況を改善しようと、平成八年に栃木県が中心となって財団法人日光杉並木保護財団が設立されました。杉並木保護財団が取り組んでいる、並木杉の樹勢回復事業をはじめ普及啓発活動などさまざまな杉並木保護

事業について、財団事務局次長の瀧田隆志さんは「普通の森林整備とは違う難しさがある」と言います。「一万二千五〇〇本の並木杉一本一本が文化財としての保護が必要なことで、樹齢三八〇年を超えるものも含め老木の並木であること、並木敷き自体が豊かな植生をもっていること、市街地内の幹線道路沿いにあることなど、こうした条件に配慮し、調整しながら事業を進めています。」

杉並木街道は、四〇〇年近くかけて現在の環境や景観が造られてきました。失われてから再生するには、同じ年月やそれ以上の労力がかかります。今残されている江戸時代以来の佇まいや景観を維持していく保護活動が重要になってきます。

また、杉並木保護、特に並木杉の生育環境の整備を早急に進めるために、『杉並木オーナー制度』という制度をスタートさせています。「今年で十一年目を迎えたこの制度は、杉を一本一千万円で購入してもらい、その運用益を活用して、土壌改善や木柵工法、隣接森林の間伐などを行うというもの。現在は全国から四三一名（五四七本）の個人や法人・団体が賛同しています（平成

十九年四月現在）」

これらの樹勢回復事業を行うのと同時に、数多くのボランティアが並木杉の保護活動を行なっています。「毎年二回、大規模なボランティア活動を実施しています。一つは、七月の日光杉並木街道クリーン作戦、もう一つは、九月の杉並木保護用地下草刈り事業です。クリーン作戦は、街道約三キロメートルを参加者全員でこみ拾いをします。下草刈りは、県内外から集まった参

並木杉休眠期の冬場に木柵工法などを実施





加者とともに保護用地一万二千平方メートルの下草除去を行います」ボランティアは、毎回県内外から、小学生から八〇歳代のお年寄りまで、

五〇〇人を超える応募があるほど。瀧田さんは「とてもありがたいことです」と言いながらも、「今後も積極的にボランティアを集い、皆様の力



をお借りして、杉並木の保護を行っていきたいですね」と言います。多くの人たちの手を借りるのは大切なことは、継続。そのためには、多くの人たちの力が必要になります。地道にPR活動などを行い、多くの人たちに活動に参加してもらい、杉並木の現状やそれを取り巻く環境などをより多くの人に知ってもらう。これらを繰り返すことで、活動が継続され、杉並木やその景観が後世に引き継がれていくのです。歴史ある杉並木とその景観を守るために日々活動する多くのスタッフやボラ



上：緑に囲まれた日光市
中：毎年、クリーン作戦には多くの人々が参加
下：広大な土地を手分けして下草刈りを実施

data

〒 320-8501

栃木県宇都宮市埴田 1-1-20

栃木県教育委員会事務局文化財課内

☎ 028-623-3460

<http://www.tochigi-c.ed.jp/bunkazai/index.htm>

ンティアたち。彼らの地道な活動によって、杉並木が後世に引き継がれていくことは間違いありません。